

- UDトラック、「クオン」のかじ取り装置(タイロッド)に不具合があるとしてリコール 17年6月22日～10月12日に生産した217台  
低床式2軸の大型トラックのかじ取り装置にて、前前軸タイロッド左側のクランプボルト/ナットの締付けトルクが不適切な為、クランプの締付力が低下するものがある。その為、タイロッドエンド部のねじ部にガタが生じ、泥水や融雪剤などが侵入し、そのままの状態で使用を続けると、タイロッドエンド部のねじ山が損傷して、最悪の場合、タイロッドエンド部からタイロッドが抜けて操舵不能になる恐れがある。
- スズキ、「アルト」「アルトラパン」「MRワゴン」・日産OEM「モコ」・マツダOEM「キャロル」のワイヤーハーネスに不具合があるとしてリコール 14年5月24日～15年5月9日に生産した6万0215台  
ホーンスイッチの配線が不適切な為、組付け作業によっては配線がステアリングコラムのブラケットに接触しているものがある。その為、走行振動等により配線の被覆が破れてショート。ホーンが意図せず鳴り、最悪の場合、ヒューズが切れ、ハザードやウインカーが点灯できず、ホーンが鳴らなくなる恐れがある。
- 日産自動車、「ラフェスタ」のエンジンルーム遮音材に不具合があるとしてリコール 04年10月25日～12年6月22日に生産した1万1867台  
エンジンルーム内の遮音材において、エキゾーストマニホールドとの隙間が少なく、かつ、遮音材に固定点のない部分がある為、遮音材の一部が熱の影響により変形してエキゾーストマニホールドと接近することがある。その為、そのまま使用を続けると、エキゾーストマニホールドの熱により焼損し、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- マツダ、「ボンゴ」・日産OEM「バネット」の燃料タンクリザーバーホースに不具合があるとしてリコール 12年5月25日～6月15日に生産した589台  
燃料タンクのプリーザーホースの材質が不適切な為、排気系の熱影響によりホースが劣化し、亀裂が発生することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、亀裂が進行し燃料が漏れ、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- プジョー・シトロエン・ジャポン、プジョー「3008」・シトロエン「C4」のバッテリープラスケーブル及び燃料パイプに不具合があるとしてリコール 16年8月26日～17年10月27日に輸入した997台  
バッテリープラスケーブルについては、取り回しが不適切な為、エンジンサポートと接触するものがある。その為、エンジンの振動によりケーブルの被覆が破れ、最悪の場合、ショートして火災に至る恐れがある。燃料パイプについては、フロアアンダーカバーの間隙が少ない為、組付け誤差により両者が接触するものがある。その為、走行中のフロアアンダーカバーの振動により、燃料パイプが損傷し、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。
- マツダ、「CX-8」「CX-5」ディーゼルモデルのエンジン制御コンピュータ(ECU)に不具合があるとしてリコール 17年9月29日～18年5月8日に生産した2万3208台  
エンジン制御プログラムが不適切な為、エンジン停止時の僅かな回転を異常と判定し、ECUへの電源供給が停止しなくなるというもの。その為、スタート・ストップ・ユニットがスタータ回路の短絡と判定し、プッシュボタンスタートを押しても、電源ポジションがオンに切り替わらず、エンジンが始動できなくなる恐れがある。
- スバル、「レガシィ」「インプレッサ」の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 04年4月1日～09年9月21日に生産した23万2708台  
燃料ポンプにつながるワイヤーハーネスの材質が不適切な為、車両使用過程の動きでコネクタ端子の接触状態が悪化し、導通不良となることがある。その為、ポンプが作動せず、走行中のエンジン停止や始動不良が発生することがある。
- 日野自動車、大型路線バス「ブルーリボン ハイブリッド」のエンジンに不具合があるとしてリコール 15年11月13日～17年7月17日に生産した104台  
ハイブリッド制御プログラムについては、エンジン始動時のプログラムが不適切な為、サプライポンプの回転速度に燃料供給が追い付かず、サプライポンプのローラとシュー間で潤滑不良を起こすことがある。その為、そのまま使用を続けると、ローラとシューが焼付いてサプライポンプが破損し、走行できなくなる恐れがある。
- 新明和工業、いすゞ「エルフ」等計4車種の塵芥車の側方照射灯に不具合があるとしてリコール 14年8月11日～18年1月22日に生産した979台  
塵芥車のPTO(パワーテイクオフ:動力取り出し装置)連動非常点滅表示灯点滅制御ユニットの回路設計が不適切な為、PTO作動により非常点滅表示灯が点滅している際に、前照灯及び方向指示器を操作した場合、側方照射灯が点滅することがある。その為、道路運送車両の保安基準第33条の2に適合しない恐れがある。
- フォルクスワーゲングループジャパン、「ゴルフ」等計30車種の灯火装置用ヒューズに不具合があるとして再度リコール 08年6月30日～12年9月14日に輸入した10万1446台  
灯火装置用ヒューズ端子部のコーティング材質が不適切な為、車体の振動で生じた端子部分の傷に熱が加わることで、非電導物質(酸化亜鉛)が生成され、接触不良が発生。ヘッドライト、フォグライト、テールライト、ブレーキランプ、ウインカーなどの一部、または複数が不灯になる恐れがある。また、さらに接触不良が進行すると接触部の熱影響によりヒューズホルダーが溶損する恐れがある。尚、今回のリコールは2014年1月に届け出たものだが、対象車種外でも不具合が発生した為、範囲を拡大し、再度リコールを届け出た。
- ホンダ、「S660」MT車のピックアップセンサに不具合があるとしてリコール 17年7月3日～18年3月27日に生産した1615台  
ピックアップセンサにおいて、スペーサの厚さ設定が不適切な為、ピックアップセンサ先端にトランスミッション内の摩耗粉が付着して揺動すると、ピックアップセンサの出力信号が一時的に乱れることがある。その為、速度計へ誤った信号が伝達され、走行中に速度計の表示が実速度に対して一瞬低く表示される。又、クルーズコントロール作動中には機能が解除される恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、スマート「フォーフォーターボ」のエンジンコントロールユニット(ECU)に不具合があるとしてリコール 16年7月20日～17年9月21日に輸入した1181台  
ECUの制御プログラムが不適切な為、排出ガスに含まれる窒素酸化物(Nox)排出量が、平成17年基準排出ガス75%低減レベルを満たさない恐れがある。またECUの車載式故障診断装置(OBD)の制御プログラムが不適切な為、適切な故障診断が行われない恐れがある。